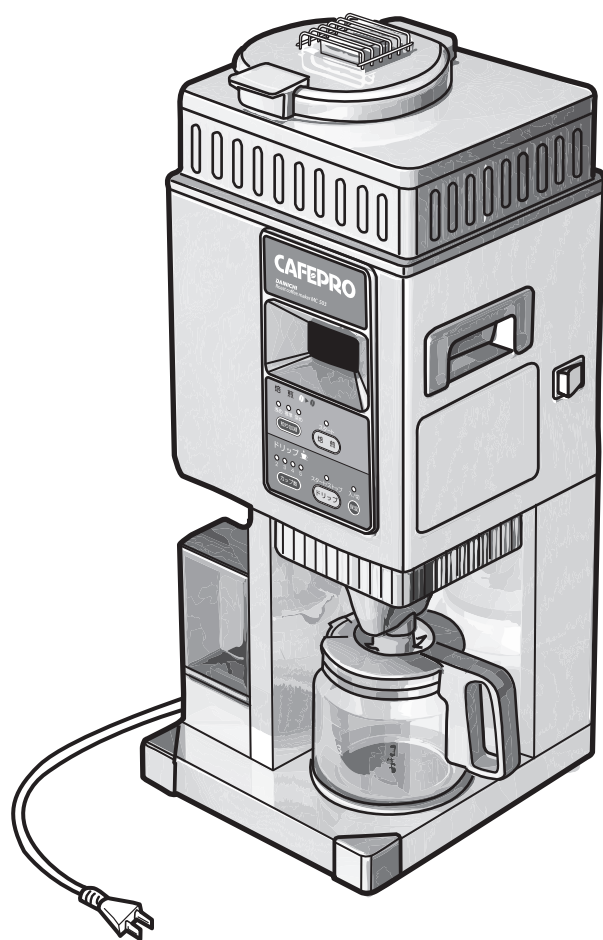
CAFEPRO

Dainichi Plus

焙煎機能付きコーヒーメーカー

カフェプロ503

取扱説明書

MC-503

保証書別添付

目　次

お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

お使いになる前に必ずこの取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。お読みになったあとは、ご使用になる方がいつでも取り出せる場所に、保証書と共に大切に保管してください。

安全のために必ずお守りください

この取扱説明書にある項目は、危険の程度によって次の2段階に区分しています。

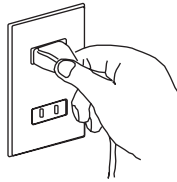
区分	内容
⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

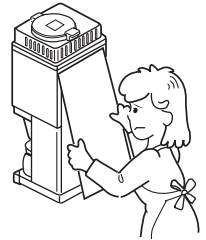
本文中のマークは、次の意味を表します。

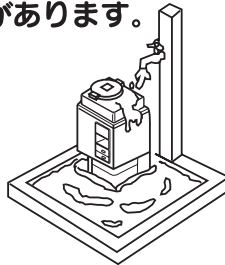
マーク	意味
	このマークは、してはいけない「禁止」を表しています。
	このマークは、必ず実行していただく「指示」を表しています。
	このマークは、「注意」を促す内容を表しています。

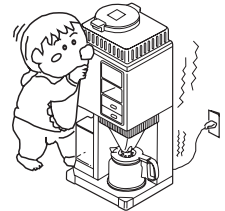
⚠ 警告(WARNING)

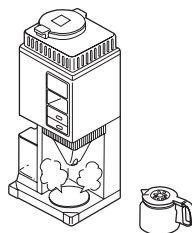
定格15A以上のコンセントを単独で使用する

他の機器との併用はしないでください。
ブレーカーが落ちたり、
火災の原因になります。

修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理をしない

火災・感電・やけどの
おそれがあります。

水につけたり、水をかけたりしない

ショート・漏電のおそれがあります。

子供だけで使わせたり、幼児の手の届くところで使わない

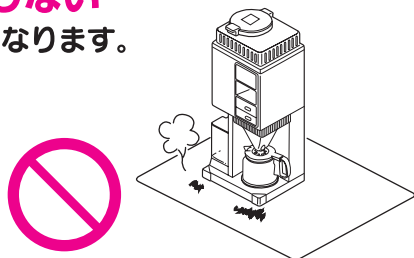
やけど・感電・けがを
するおそれがあります。

容器(サーバー)なしで使わない

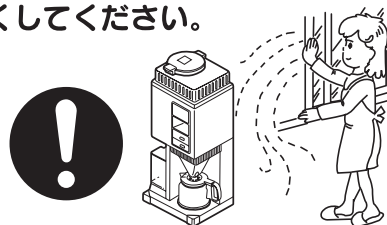
過熱して発火の原因になります。

カーテンなど可燃物の近くでは使用しない

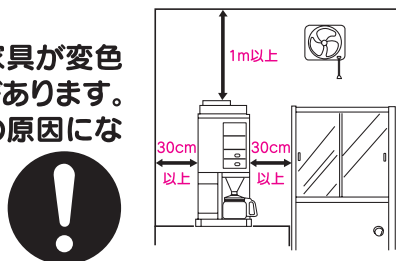
火災の原因になります。

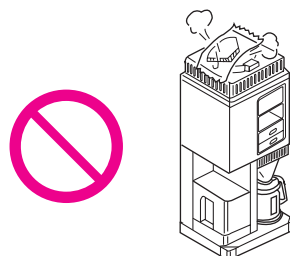
⚠注意(CAUTION)

不安定な場所や熱に弱い敷物の上では使用しない

火災の原因になります。

煙感知器の近くに設置しない

焙煎のときの煙で、煙感知器が作動することがありますので、換気扇を回すか、窓を開けて換気をよくしてください。

本体の上側１ｍ、周囲は30cm以上開け、換気のよい場所で使用する

周囲の壁や家具が変色するおそれがあります。また、火災の原因になります。

本体上部に物をのせない

火災の原因になります。

ガスコンロなどの炎や熱気のあたる場所に置かない

火災の原因になります。

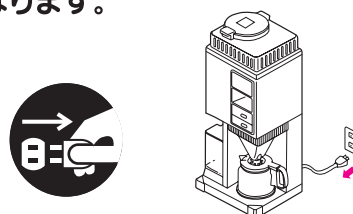
交流100Ｖ以外では使用しない

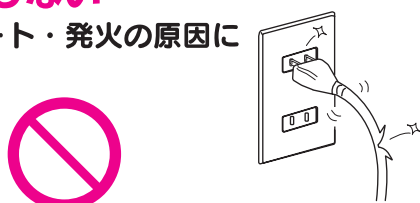
火災・感電の原因になります。

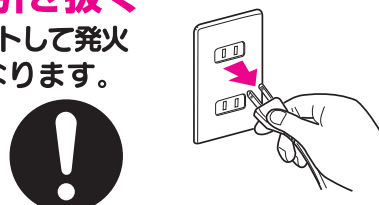
電源コードを傷めない

コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったりしないでください。また、重いものをのせたり挟み込んだりしないでください。
コードが破損し、火災・感電の原因になります。

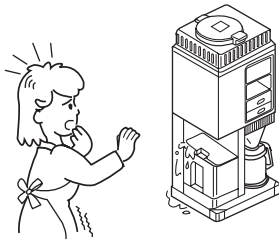
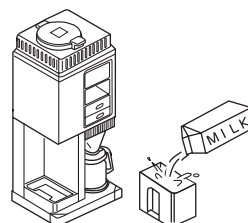
長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く

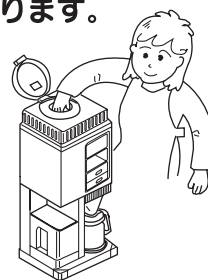
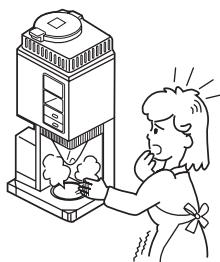
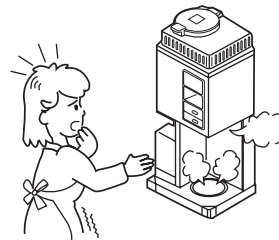
けがややけど、絶縁劣化による感電・漏電火災の原因になります。

コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない

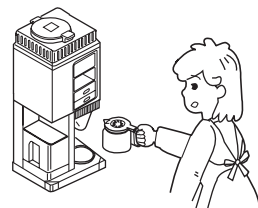
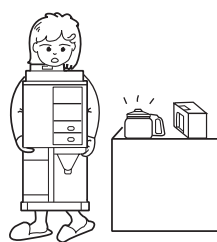
感電・ショート・発火の原因になります。

電源プラグを抜くときは、コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜く

感電やショートして発火する原因になります。

安全のために必ずお守りください

⚠注意(CAUTION)

水タンクに水を入れすぎない
サーバーからコーヒーがあふれ、やけどをするおそれがあります。

水タンクに水以外のものを入れない
異常動作・故障の原因になります。

サーバーは直接火にかけない
サーバーが割れたり、取っ手などが溶けたり、発火するおそれがあります。

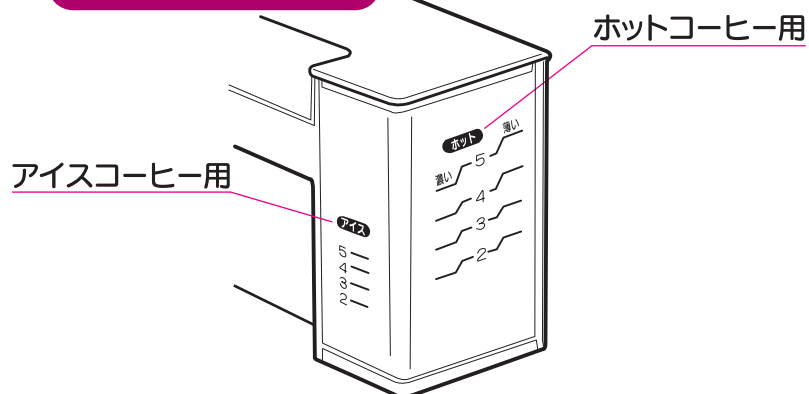
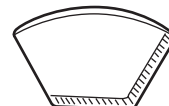
生豆投入口に手を入れないこと
やけど・けがの原因になります。

使用中や使用直後は保温プレートに触れない
高温のため、やけどをするおそれがあります。

保温プレートが熱いときは、水タンクをセットしない
湯口から熱湯が吹き出し、やけどのおそれがあります。

蒸気が出るところには顔を近づけたり手を触れない
やけどのおそれがあります。特に乳幼児には触れさせないようにご注意ください。

ドリップ中は、サーバーを引き出さない
やけどのおそれがあります。

本体を運ぶときは必ずサーバー、水タンクを取り外して運ぶ
サーバー、水タンクなどが落下して、破損したり、けがをするおそれがあります。

回転物注意
コーヒー粉の排出口には指を入れないでください。内部の刃でけがをするおそれがあります。

各部のなまえ

外観図

⚠運転中高温になる部分(ご注意ください)

水タンクの目盛り

付属品

操作部

焙　煎

〔煎り加減〕ランプ(緑)　浅め　標準　深め

【煎り加減】選択ボタン　煎り加減

〔焙煎〕ランプ(赤)　スタート

【焙煎】ボタン　焙　煎

ドリップ

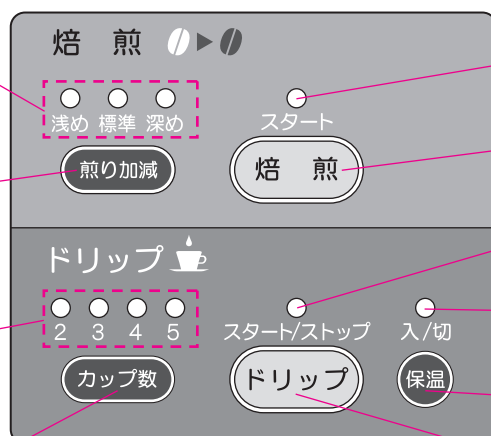
〔カップ数〕ランプ(緑)　2　3　4　5

【カップ数】選択ボタン　カップ数

〔ドリップ〕ランプ(赤)　スタート/ストップ

【ドリップ】ボタン　ドリップ

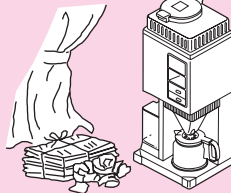
〔保温〕ランプ(赤)　入/切

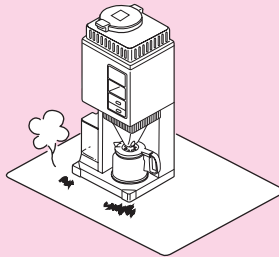
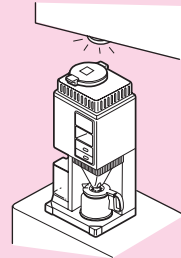
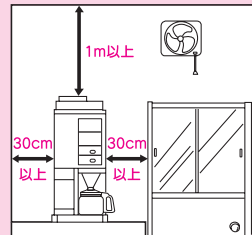
【保温】ボタン　保温

使用前の準備

1 水平な場所に設置する

お守りください

次の場所には設置しない

○カーテンなど可燃物の近く

○煙感知器の近く

○不安定な場所や熱に弱い敷物の上

○機器が囲まれる場所
上側１m、周囲30cm以上開ける

2 電源プラグをコンセント(100V)に差し込む

3 電源スイッチを入れる

メ モ

○初めてお使いになるときや長期間お使いにならなかったときは、水タンク、ドリッパー、サーバーを水洗いしてください。
コーヒー豆を入れずに水だけでドリップを１～２回行なってください。

お守りください

○家庭用電源以外では使用しないでください。
予想しない事故の原因になります。
○200V電源には絶対に差し込まないでください。
火災・感電・故障の原因になります。
○コンセントは単独で使用し、他の機器との併用はしないでください。
ブレーカーが落ちたり、火災の原因になります。

使用方法

【運転の種類】

本機には、焙煎とドリップの2つの機能があります。
各々は単独で運転することも同時に運転することもできます。

運転の種類	使用用途
焙煎運転	生豆を焙煎するために使用します(１回の焙煎で約10杯分の焙煎ができます)。 初めてお使いになるときや、焙煎豆をストックするときにお使いください。
ドリップ運転	焙煎した豆をドリップします(2～5杯分の選択ができます)。 焙煎豆がストックされているときにお使いください。

使用方法

【焙煎運転のしかた】

1 生豆を入れる

①本体ふたを開け、豆が入っていないことを確認する。
豆が入っているときは、掃除機などで豆を吸い取ってください。
②生豆を付属の計量カップにすりきり１杯入れる(60g)。
すりきり１杯より少ない、または多い量の生豆は絶対に入れないでください。故障の原因になります。
(計量カップすりきり１杯でコーヒー約10杯分の焙煎ができます)

2 煎り加減を選択する

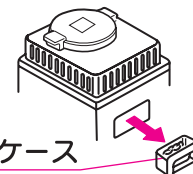
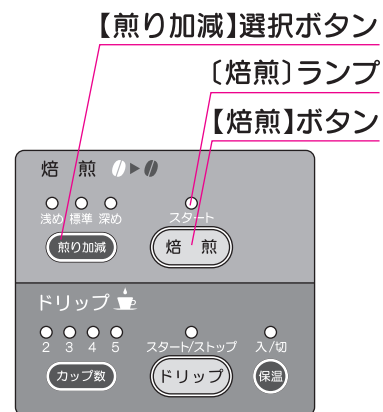
【煎り加減】選択ボタンで、「浅め・標準・深め」を選択する。
浅め･･･コーヒーの酸味がつよくなる
深め･･･コーヒーの苦みがつよくなる

3 焙煎をする

【焙煎】ボタンを押す ⇨〔焙煎〕ランプ(赤)点灯
焙煎中は、本体ふたを開けないでください。
パチパチという音や煙がでることがありますが、異常ではありません。

4 約14分で焙煎が終了 ⇨〔焙煎〕ランプ(赤)消灯

焙煎開始から約11分後に焙煎豆ストックに焙煎豆が落ち、その後、約3分間冷却が行われ、〔焙煎〕ランプ(赤)が消灯し、焙煎が終了します。

5 チャフ取りケース内の生豆の皮をすてる

便利な使いかた

○本機は焙煎した豆を最大約30杯分ストックできます。
ただし、１回の焙煎では約10杯分(付属の計量カップすりきり１杯分)しか焙煎できません。
焙煎豆ストック量確認窓より、ストック量が約30杯分を超えないよう注意してください。
約30杯を超えると故障の原因になります。
○ストックしておくことにより、ドリップの時、焙煎の必要がなく、短時間でドリップが行え便利です。焙煎豆をストックしておくことをおすすめします。

連続して焙煎したいとき

〔焙煎〕ランプ(赤)点灯中は次の焙煎はスタートできません。〔焙煎〕ランプ(赤)が消灯してから生豆を入れてください。
また、生豆を入れたあと、ただちに焙煎を行なってください。
時間をおくと、焙煎釜の余熱により、設定した「煎り加減」と異なることがあります。

お守りください

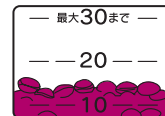
○焙煎豆ストック量が確認窓の上端(ストック約30杯分)にあるときは、これ以上焙煎しないでください。
○１回の焙煎で、計量カップすりきり１杯より少ない、または多い量の生豆は絶対に入れないでください。
○焙煎途中で生豆を追加しないでください。また、焙煎途中で電源スイッチを切らないでください。故障の原因になります。
○当社指定の生豆以外は使用しないでください。

使用方法

【ドリップ運転のしかた】

1 焙煎豆ストック量を確認する

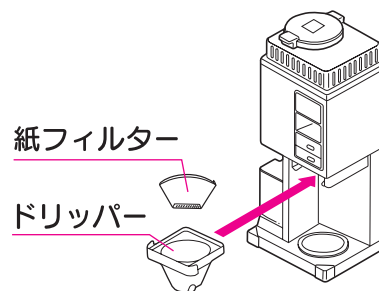
必要な量の焙煎豆のストックがあることを確認してください。
足りないときは、6ページ「焙煎運転のしかた」に従い、焙煎を行なってください。

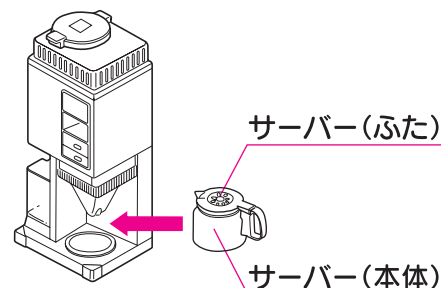
<焙煎豆ストック量確認窓>

2 〔保温〕ランプ(赤)消灯を確認する

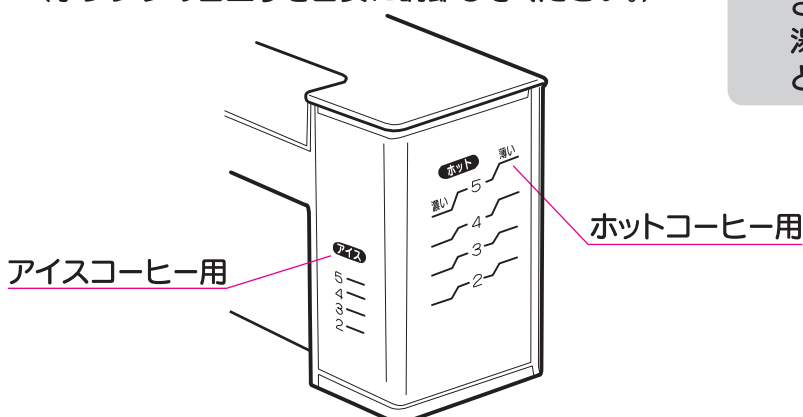
〔保温〕ランプ(赤)が点灯しているときは、**【保温】ボタン**を押し、保温を切ってください。

3 ドリッパーに紙フィルターをセットする

①ドリッパーを取り出す。
②紙フィルターを折り、ドリッパーに入れる。
③ドリッパーをセットする。

<紙フィルターの折りかた>
紙フィルターは、市販の3～4杯用(カリタ102相当品)を使用してください。

4 サーバーをセットする

サーバー(本体)にサーバー(ふた)をし、保温プレートの上にセットしてください。

5 水タンクに水を入れ、セットする

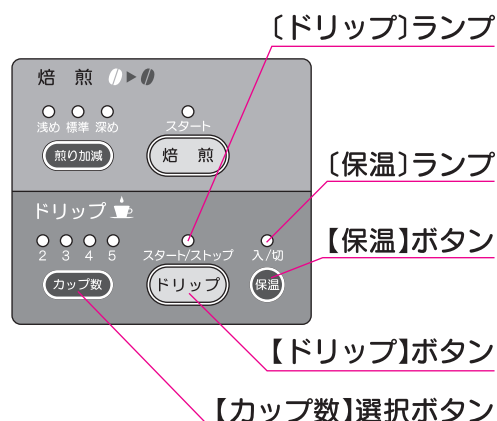
○ご希望のカップ数に合わせて、水タンクに水を入れてください。
○お好みに合わせてコーヒーの濃さを調節できます。(水タンクの目盛りを目安に調節してください。)

○サーバー、ドリッパーがセットされていることを確認してください。
湯口より熱湯が噴き出し、やけどのおそれがあります。

使用方法　ドリップ運転のしかた

6 カップ数を選択する

【カップ数】選択ボタンにより、「2・3・4・5」を選択する。

7 ドリップをスタートする

【ドリップ】ボタンを押す ⇨ **〔ドリップ〕ランプ(赤)と〔保温〕ランプ(赤)点灯**

8 約7分後(5杯のとき)にドリップは終了 ⇨〔ドリップ〕ランプ(赤)消灯

ドリッパー内の紙フィルターは捨ててください。
ドリッパーより湯気が出ますので、やけどに注意してください。

9 ドリップ後、保温が行われます
保温は、1時間後に自動停止します ⇨〔保温〕ランプ(赤)消灯

保温が必要ないときやサーバーが空のときは、**【保温】ボタン**を押して切ってください。

続けてドリップするときは、保温を切ってください。**〔保温〕ランプ(赤)**が点灯しているときは、ドリップできません。

お守りください

- **〔保温〕ランプ(赤)が点灯しているとき、または保温プレートが熱いときは、サーバー、ドリッパーがセットされていないまま水タンクをセットしないでください。湯口より熱湯が噴き出し、やけどのおそれがあります。**
- **水タンクには、水量「5」を超える水を入れないでください。サーバーからコーヒーがあふれることがあります。**
- **水タンクには絶対に熱湯を入れないでください。変形したり、熱湯が飛び散ったりして危険です。**
- **ドリップ運転と同時に保温プレートの保温が始まりますので、保温プレートにさわらないでください。**
- **1週間以上使用しないときは、焙煎豆の風味が変化しますので、ストックされている焙煎豆を取り出して下さい(9ページ「こんなときは」をお読みください)。**

こんなときは

次のような操作を行ないたいとき、または症状になったときは、適切な処置を行なってください

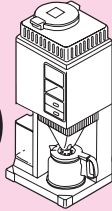
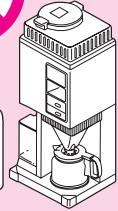
操　作・症　状	処　置　方　法
焙煎豆ストック内の焙煎豆を取り出したい	水タンクをセットせずに**【ドリップ】ボタン**を押す。 焙煎豆が粉になり排出されます。 焙煎豆が多いときは、何度か繰り返し行なってください。
脱臭触媒が赤熱している	そのまま使用を続けると、ほこりなどに発火して火災のおそれがあります。ただちに**電源スイッチ**を切り、機器及び焙煎中の豆が冷えてから本体ふたを開け、掃除機などで豆を吸い取ってください。その後、生豆を入れずに焙煎運転(空焼き運転)を行なってください。 (触媒が詰まり気味で、特に深めに焙煎したときに起こることがあります。)
焙煎状態がばらつく	付属の計量カップにすりきり１杯の生豆を入れる。 (○生豆の種類・含水量および生豆を入れた時の焙煎釜温度によって焙煎状態がばらつきます。 ○一度焙煎運転が停止し、釜が温まっている状態で再度焙煎を行うと焙煎状態が安定します。)
コーヒーが薄い コーヒー粉の量が少ない	焙煎豆ストック内で焙煎豆が詰まっていることが原因です。機器をゆするなどして焙煎豆ストック内の焙煎豆に軽く振動を与えてください。
いつもよりドリップ時間が長い 水タンクに水が入っているのに、**〔ドリップ〕ランプ(赤)**が消灯している(**〔保温〕ランプ(赤)**は点灯している)	○本体内のパイプに湯アカが付着していることが原因です。10ページ『湯の出具合が悪くなったら』をお読みになり、処置を行なってください。 ○処置を行なっても繰り返し症状が現れたときは使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。 14ページ
焙煎中に停電した 焙煎中に運転スイッチを切った	機器および焙煎中の豆が冷えてから本体ふたを開け、掃除機などで豆を吸い取り、再度焙煎運転を行う。 6ページ
ドリップ中に停電した ドリップ中に運転を途中でやめた	○続けてドリップしたいときは、**【保温】ボタン**を押す。このとき、**〔保温〕ランプ(赤)**のみ点灯しますが、ドリップ運転は行えます。 ○最初からドリップするときは、紙フィルター・サーバー内に入っているコーヒーを取り出し、再度セットしてから水タンクに水を規定量入れ、ドリップ運転を行う。 7ページ
機器が転倒した	電源プラグをコンセントから抜き、機器の水分を完全に乾かしてから使用してください。

手入れのしかた

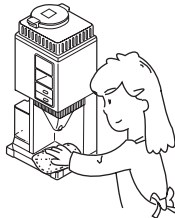
定期的に次の手入れを行なってください

お守りください

手入れを行うときは、次のことを必ず守ってください。

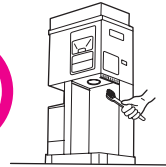
○**必ず電源プラグをコンセントから抜き、保温プレート、焙煎部が冷えてから行なってください。
やけどのおそれがあります。**

○**本体の汚れをふき取るときは、シンナー・アルコール類は使用しないでください。色が変わったり、表面に傷が付いたり割れやすくなります。汚れがひどいときは、うすめた中性洗剤をしみ込ませた布でふいてください。**

ご使用のたびに

本体・保温プレート

○よく絞ったふきんでふき取ってください。
○直接水をかけないでください。

ドリッパー・サーバー・水タンク・チャフ取りケース・サーバーふた

○スポンジを使い水洗いする。
台所用洗剤以外は使用しないでください。

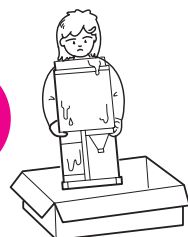
コーヒー粉排出口・湯口

○ドリップ時の湯気が結露し、水滴にコーヒー粉が付着することがあります。付着したコーヒー粉は、歯ブラシなどで取り除いてください。
付着したままにしておくと、酸化した豆の臭いがつき、次に使うとき、コーヒーの風味をそこねます。

湯の出具合が悪くなったら

**水質により本体内のパイプに湯アカが付着し、湯の出具合が悪くなることがあります。
次の方法でお手入れをしてください。**

①ドリッパー・サーバーをセットする。
②レモン半分をふきんにくるみ、水タンクにしぼり入れる。
③水タンクに水量目盛り「５」まで水を入れ、本体にセットする。
④**【保温】ボタン**を押す。
⑤水タンク内の水がなくなったら、サーバーにたまった湯を捨て、サーバーをもとに戻す。
⑥もう１度②〜③を繰り返す。
⑦水タンク内の水がなくなったら**【保温】ボタン**を押して保温を停止させ、サーバーにたまった湯を捨てる。

保管するとき

○ストックされている焙煎豆は、すべて取り出してください。
（９ページ「こんなときは」をお読みください）
○ぬれたまま保管しないでください。
よく水分をふき取り、乾燥させた状態で保管してください。

故障・異常の見分けかたと処置のしかた

【修理を依頼する前に】

次の症状は故障ではありません。修理を依頼される前にもう１度ご確認ください。

症　　状	原　　　　因	処　置　方　法
水が漏れている	水タンクを正しくセットしていない。	水タンクを正しくセットする。 7ページ
	水タンクにひびが入っている。	新しいものと交換する。 裏表紙
コーヒーがあふれる	紙フィルターが正しくセットされていない。	紙フィルターを正しくセットする。 7ページ
	紙フィルターが入っていない。	
	前回使用した紙フィルターを交換しないで使用した。	紙フィルターを交換し、正しくセットする。 7ページ
	ドリッパー・サーバーが正しくセットされていない。	ドリッパー・サーバーを正しくセットする。 7ページ

※焙煎時、パチパチという音や煙が出ることがありますが、故障ではありません。

【異常の原因と処置のしかた】

何らかの異常で表のようなエラー表示や症状が現れたときは、適切な処置を行なってください

表示部(エラー表示)	原　　　　因	処　置　方　法
●浅め ●標準 ●深め　●2 ○3 ○4 ○5 煎り加減　カップ数 ランプ点滅	機器が転倒したため、自動停止した。 **(転倒自動停止装置が作動)**	**電源スイッチ**を切り、機器の水分を完全に乾かしてから、『**エラー時の処置方法１**』を行う。 12ページ
●浅め ●標準 ●深め　○2 ●3 ○4 ○5 煎り加減　カップ数 ランプ点滅	一時停電した、または電源プラグが抜けかかっているため、自動停止した。 **(停電安全装置が作動)**	**電源スイッチ**を切り、『**エラー時の処置方法１**』を行う。 12ページ
●浅め ●標準 ●深め　○2 ○3 ●4 ●5 煎り加減　カップ数 ランプ点滅	焙煎豆ストックに生豆などが入り、ミルがロックして自動停止した。	**電源スイッチ**を切り、『**エラー時の処置方法２**』を行う。 12ページ 13ページ
●浅め ●標準 ●深め　●2 ○3 ●4 ●5 煎り加減　カップ数 ランプ点滅	規定量以上の生豆の入れ過ぎです。	**電源スイッチ**を切り、機器および焙煎中の豆が冷えてから本体ふたを開け、掃除機などで豆を吸い取る。 **【煎り加減】選択ボタン**と**【カップ数】選択ボタン**を押しながら**電源スイッチ**を入れる。通常の表示に戻ったら規定量の生豆を入れ、再度焙煎運転をしてください。 6ページ
	点検・修理が必要な故障です。	規定量の生豆を入れても再度エラー表示が現れたときは使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。 14ページ
上記以外のランプ点滅	点検・修理が必要な故障です。	電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店にご相談ください。 14ページ
ランプが点灯しない		

こんなときは修理が必要です。

- ○電源プラグ、コードが異常に熱くなる。
- ○電源コードに傷がついていたり、触れると通電したり、しなかったりする。
- ○サーバーの取っ手がぐらつく。

お買い上げの販売店にご相談ください。 14ページ

お守りください

○ **処置を行なっても直らないときや、11ページ以外の症状が発生したときは故障が考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。**14ページ
故障したまま使用を続けると、予想しない事故が発生するおそれがあります。

エラー時の処置方法１

(焙煎釜に豆が残っているとき)

○ 機器および焙煎中の豆が冷えてから本体ふたを開け、掃除機などで豆を吸い取る。
電源スイッチを入れ、再度焙煎運転を行う。6ページ

(水タンクに水が残っているとき)

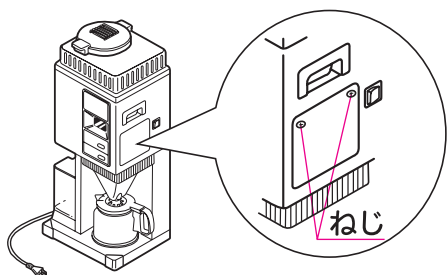
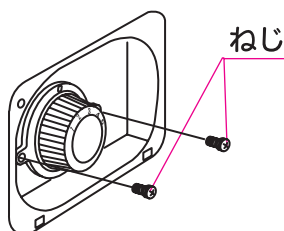
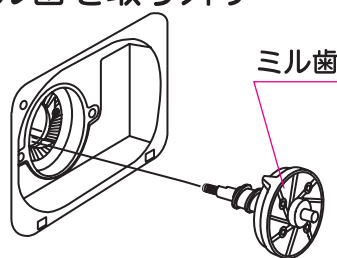
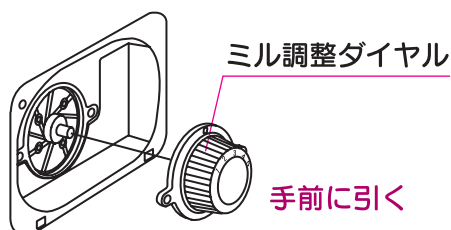
○ 続けてドリップしたいときは、**電源スイッチ**を入れ、**【保温】ボタン**を押す。
このとき、**〔保温〕ランプ(赤)**のみ点灯しますが、ドリップは行えます。
○ 最初からドリップするときは、紙フィルター・サーバー内に入っているコーヒーを取り出し、再度セットしてから水タンクに水を規定量入れ、**電源スイッチ**を入れてからドリップ運転を行う。7ページ

(その他のとき)

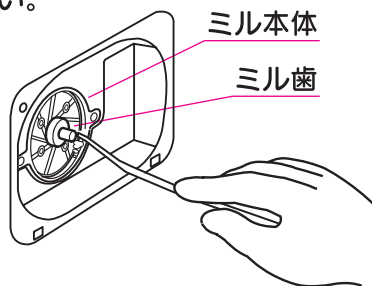
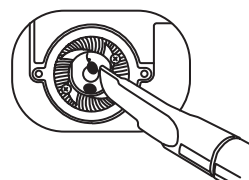
○ **電源スイッチ**を入れ、**【保温】ボタン**を押す。

エラー時の処置方法２

必ず、電源プラグをコンセントから抜き、本体が冷えてから手袋をして行なってください。けがをするおそれがあります。

1 本体右側面のカバー取付ねじ２本を外し、カバーを外す

2 ミル調整ダイヤル取付ねじ２本を外す

3 ミル調整ダイヤルを取り外す

4 ミル歯を取り外す

左右に動かしながら手前に引く

○ ミル歯が外れないときは、ミル本体とミル歯の間に付着しているコーヒー粉を先のとがったもので取り除いてください。

○ ミル歯を取り外すと同時に焙煎豆ストック内より焙煎豆が少しずつ落ちてきますので、掃除機などで吸い取ってください。

故障・異常の見分けかたと処置のしかた

5 ミル本体内に焙煎豆が入り込んでいないか確認する

○ 焙煎豆が入っているときは、先がとがったもので取り出してください。

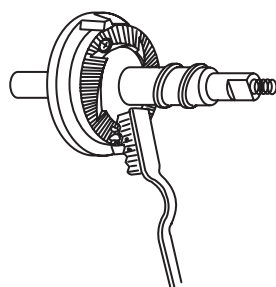
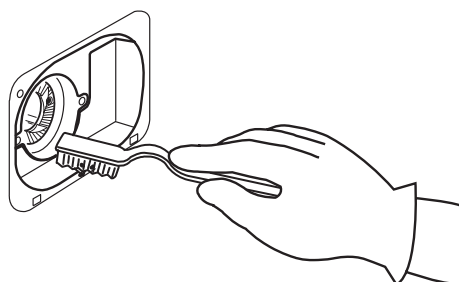
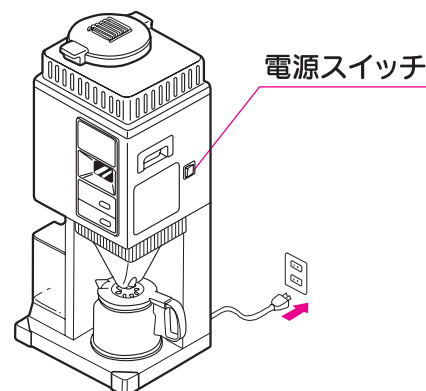
6 ミル調整ダイヤル、ミル歯、ミル本体に付着しているコーヒー粉を歯ブラシなどで取り除く

(ミル調整ダイヤル)

(ミル歯)

(ミル本体)

7 取り外したときと逆の順序で取り付ける

○ シャフトのD形状に合わせて入れてください。
○ ミル調整ダイヤル目盛りが「3」〜「4」になっていることを確認してください。
○ バネがミル歯のシャフト先端に付いていることを確認してください。

8 電源プラグをコンセントに差し込み【煎り加減】選択ボタンと【カップ数】選択ボタンを押しながら、電源スイッチを入れる

保証とアフターサービス

【保証について】

保証書(別添付)

○保証書は、必ず「お買い上げ日、製造番号、販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。
○内容をよくお読みのあと、大切に保管してください。

保証期間

○**保証期間はお買い上げ日から本体１年間**です。
なお、保証期間中でも有料となることがありますので、保証書をよくお読みください。

【補修用性能部品について】

○補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
○本機器の補修用性能部品は、製造打切り後９年保有しています。

【修理を依頼されるときは】

○『故障・異常の見分けかたと処置のしかた』に従ってお調べください。11ページ 12ページ 13ページ
○処置を行なっても直らないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店にご相談ください。そのときは、次の事項をご連絡ください。

品　　　名：焙煎機能付きコーヒーメーカー
型　　　名：MC-503
お買い上げ日：保証書に記載
症　　　状：エラー表示など、できるだけ詳しく

保証期間中

○修理に際しましては、保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているとき

○修理すれば使用できるときは、ご希望により有料修理させていただきます。

修理料金

○技術料+部品代などで構成されています。

仕　様

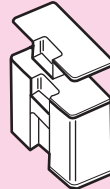
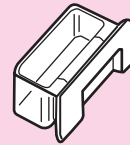
項目		仕様
型名		MC-503
外形寸法(高さ×幅×奥行)		616 mm×240 mm×265 mm
質量		約10.2 kg
コード長さ		2.0 m
定格電圧		AC100 V
定格周波数		50/60 Hz
焙煎運転	定格消費電力	595/595 W
	生豆投入量	60 g(約10杯分)
	焙煎豆ストック量	最大約30杯分
ドリップ運転	定格消費電力	750/750 W
	最大容量	５杯(水量:650 mL)
焙煎・ドリップ同時運転	定格消費電力	1,345/1,345 W
安全装置		転倒自動停止装置、停電安全装置
付属品		計量カップ(60g用)、紙フィルター(5枚)

部品のご注文のしかた

次の別売部品は、お買い上げの販売店にご注文ください。その際は、型名・部品名をはっきりとお伝えください。また、インターネットでもご注文ができます。

別売部品

サーバー(本体)
1,650円
(本体価格 1,500円)
サーバー(ふた)
660円
(本体価格 600円)

ドリッパー
990円
(本体価格 900円)

水タンク(本体)
1,760円
(本体価格 1,600円)
水タンク(ふた)
880円
(本体価格 800円)

チャフ取りケース
880円
(本体価格 800円)

計量カップ
660円
(本体価格 600円)

この価格は本コーヒーメーカー用です。
また、価格は予告なく変更することがあります。
その他の部品についてはお買い上げの販売店にご相談ください。

ご相談窓口(使用方法・お手入れのしかた・修理のご相談、別売部品の購入など)

お客様ご相談窓口(通話料無料)
TEL 0120-468-110
FAX 0120-468-220
＜受付時間＞
11月～ 1月 9:00～19:00、土曜 9:00～17:00
(日曜・祝日・年末年始は休み)
2月～10月 9:00～12:00、13:00～17:00
(土曜・日曜・祝日は休み)

インターネットからのお問い合わせ
■パソコン・タブレット・スマートフォンからアクセス
http://www.dainichi-net.co.jp/support/

※通信料などはお客様のご負担となります。

※型名(本体側面に表示)をご確認のうえ、ご連絡ください。

ダイニチ工業株式会社におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて

1.ダイニチ工業株式会社(以下「弊社」)は、お客様の個人情報をお客様からのご相談への対応や修理及びその確認などに利用させていただき、これらの目的のためにご相談内容の記録を残すことがあります。
2.次の場合を除き、弊社以外の第三者に個人情報を提供・開示することはありません。
①修理やその確認業務を委託する場合
②法令の定める規定に基づく場合
3.個人情報に関するご相談は、お問い合わせいただきました窓口にご相談ください。

ダイニチ工業株式会社

〒950-1295 新潟市南区北田中780-6
ホームページ　http://www.dainichi-net.co.jp/

MC-503・20・0・000・3